

HTB制作

テレメンタリー2016「野生のいのち 死の連鎖」

第58回科学技術映像祭 文部科学大臣賞を受賞

北海道に飛来する絶滅危惧種のオオワシとオジロワシが冬の間、列車にはねられ命を落とすことが頻発している謎を追った、HTB制作のテレメンタリー2016「野生のいのち 死の連鎖」が、第58回科学技術映像祭「自然・暮らし部門」文部科学大臣賞を受賞しました。2016年度科学放送高柳賞の優秀賞に続く受賞です。

科学技術映像祭は、科学技術を正確にわかりやすく伝える優れた映像を選奨し、科学技術への関心を喚起し、その普及と向上をはかるとともに、社会一般の科学技術教養の向上に資することを目的に1960年に設けられた日本で最も権威のある科学技術の映像祭です。「自然・暮らし部門」「研究開発部門」「科学技術教育・教養部門」があり、25機関から43作品が出品されました。

【受賞番組】 テレメンタリー2016「野生のいのち 死の連鎖」(日時違い全国ネット)
【放送日時】 2016年7月13日(水) 深夜1時05分～1時35分(北海道ローカル)

| | |
|---------|--------|
| ナレーション | 高橋 ひかる |
| ディレクター | 山上 暢 |
| 撮影 | 本田 海 |
| 編集 | 芝原 久美子 |
| プロデューサー | 山田 佳晴 |

【番組内容】

絶滅危惧種のオオワシとオジロワシ。冬の間、北海道に飛来する希少な野鳥が相次いで命を落とした。1年間で13羽。列車との衝突が原因だった。

釧路市で野生動物の保護に取り組む猛禽類医学研究所の齊藤慶輔獣医師は、ワシに小型の発信機を取り付け、その行動を解析した。すると、ひとつの特徴が明らかになった。ワシは魚を求めて、水辺と線路を往復していたのだ。なぜ、列車とぶつかる危険がある線路周辺にとどまるのか？ワシの死骸をレントゲンで調べると、エゾシカの肉を食べていたことが分かった。つまり、列車がエゾシカをはね、そのシカの肉を食べに来たオオワシが事故に遭っていたのだ。例年であれば、オオワシやオジロワシは凍った湖での「氷下待ち網漁」で漁師が捨てる魚を食べることが多い。しかし、この冬は暖冬で漁期も短く、おこぼれにあずかることができにくくなっていた。ワシは魚の代わりとしてエゾシカの肉の味を覚えたのだ。

そもそも道内では、エゾシカの事故が多発している。その数は毎年1000件前後。1日に2～3頭が列車にはねられているのだ。なぜ、シカは線路に群れるのか？ 仮説として浮かんできたのは「鉄分」だった。シカやオオワシの生態を追い、「死の連鎖」を防ぐ手だてを探った。